

# インターネットによる学生の安否情報確認システム

湯瀬 裕昭<sup>1</sup>

五十川 直也<sup>1</sup>

岩崎 剛久<sup>2</sup>

原田 雅樹<sup>2</sup>

1. 静岡県立大学経営情報学部

2. SBS 情報システム

## 1 はじめに

東海地震などの大規模災害時に、大学などの教育機関は学生の安否状況を把握する必要がある。安否確認ハガキや伝言ダイヤルなどの既存の安否確認手段を補完することを目的に、インターネットを利用した学生の安否情報確認システムを試作した<sup>[1]</sup>。その後、システムの実用化に向けて、システムの改良を行った。本稿では、改良した学生の安否情報確認システムについて報告する。

## 2 システムの概要

インターネットで一番よく利用されているホームページ形式で、学生の安否情報の登録、閲覧を可能とするシステムである。図1に本システムの概要を示す。

学生は、インターネットを介して学内外から安否情報の登録を行える。教職員は、登録された安否情報から学生の安否状況の把握が可能となる。登録されている学生の安否情報は、インターネットを介して学生の父兄・知人などに公開することができる。

本システムでは、安否情報登録の対象者を大学などに所属する学生に限定している。そこで、登録される安否情報の信頼性を高めるため、安否情報登録時にユーザ認証を行う。安否情報登録用パスワードを事前に決めても、災害時の混乱や動揺によってパスワードを忘れてしまうことが想定されるため、パスワードの代わりに学生の各種個人データをユーザ認証に利用する。学生に、所属する学部、学科、学籍番号、生年月日を入力してもらい、それらを認証用デ

ータと比較し、ユーザ認証を行う。

本システムでは、安否情報サーバへのアクセス手段として、新たなインターネットアクセス手段として急激に普及しているiモードなどのインターネット接続携帯電話とインターネット接続可能なパソコンなどを利用する。

## 3 システムの改良点

試作システムは、Webサーバと独自にC言語で開発したCGIプログラムを使って構築されていた。しかし、学生データと安否データの管理を容易にするため、独自ファイルによるデータ管理を止め、データベースシステムとしてPostgreSQL、サーバサイドスクリプト言語としてPHPを用いて、システムの再構築を行った。試作システムには、学生データの更新・削除の機能がなかったが、本システムでは、教職員がWeb上から簡単に学生データの更新・削除ができるように改良を行った。また、安否確認ハガキや伝言ダイヤルに寄せられた安否情報を教職員がWeb上から安否情報サーバに登録できる機能などを付け加えた。

## 4 おわりに

今後、本システムを試験運用しながら、更に改良を行う予定である。

## 参考文献

[1]清水澄明,湯瀬裕昭,柴田義孝,鈴木直義,“インターネットを利用した学生の安否情報確認システム”,2000年電子情報通信学会総合大会,B-7-96.

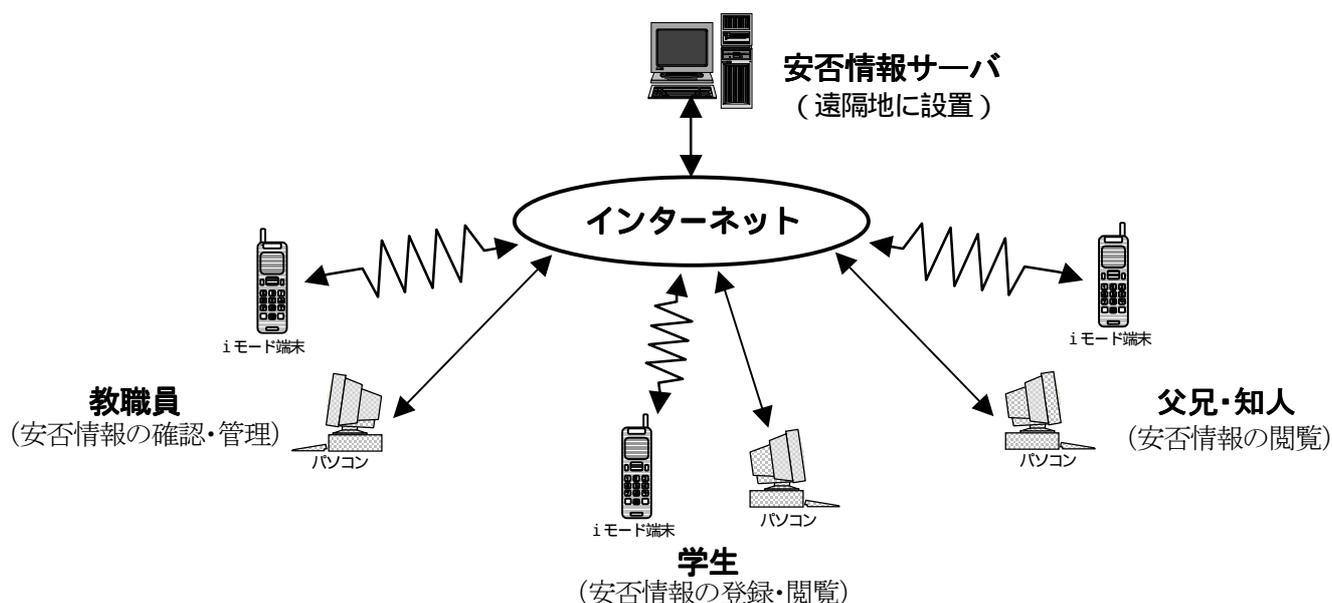


図1 安否情報確認システムの概要